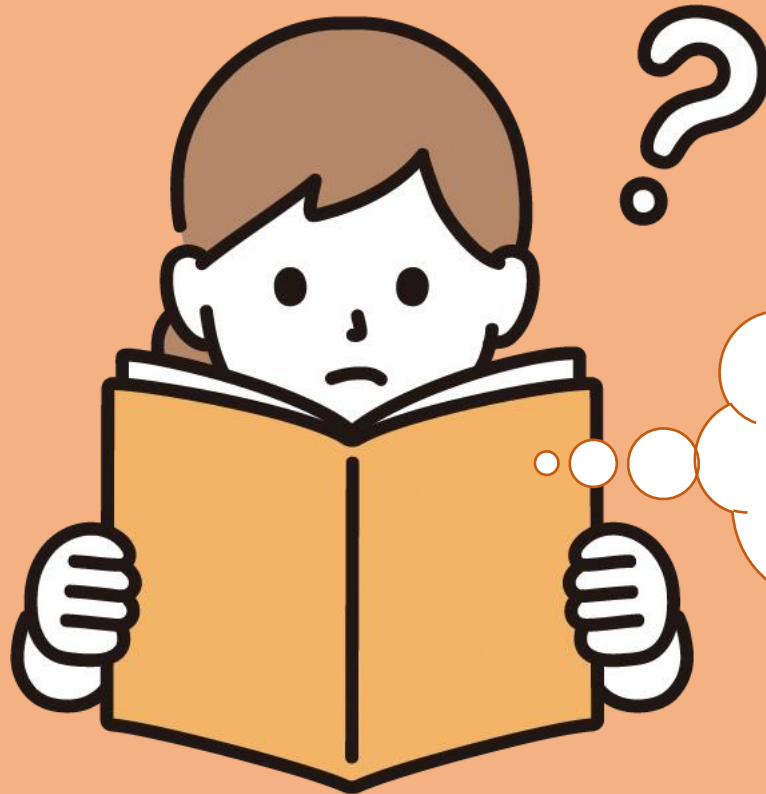


Special Needs Education

# 特別な指導内容

学習障がい編



何をどうやって  
指導するの？

**New!!!**

令和3年6月文部科学省初等中等教育局特別支援教育課から出された最新の「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」等を参考に作成!!

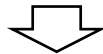
## 学習障がいのある子供に対する特別な指導内容とは？

学習障がいとは、全般的に知的発達に遅れはありませんが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論するといった学習に必要な基礎的能力のうち、一つないし複数の特定の能力についてなかなか習得できなかつたり、うまく発揮することができなかつたりすることによって、学習上、様々な困難に直面している状態をいいます。学習障がいのある子供に対して、どのような指導内容があるかみていきましょう。



### ア 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること

文字の判別が困難で、文字を読み間違ったり文節の把握ができなかつたりする場合がある。



- ◆学習内容の理解が促進される方法や学習内容を整える。  
例) 本人にとって読み易い書体を確認したり、文字間や行間を広げたりして負担を軽減する。
- ◆聞けば理解できたり、図や絵等を使えば効率的に表現することができたりすることもあるので、子供自身も得意な学習の方法や、自分に適した学習の方法について認識し、活用できるように指導する。

### イ 代替手段等の使用に関すること

漢字の読みが覚えられない、覚えてもすぐに忘れてしまう、似たような漢字を読み誤るなどのつまずきにより、長文の読解が著しく困難になったり、結果として読書への意欲や関心が低かつたり、読書経験の乏しさから語彙が増えていかなかつたりすることがある。



- ◆自分が読み易くなる方法や代替手段を知る。  
例) 振り仮名を振る、拡大コピーをする。コンピューターによる読み上げや電子書籍を使用し文字の大きさを変える。
- ◆書くことの代替手段を知る。  
例) 口述筆記のアプリケーションやワープロを使ったキーボード入力、タブレット端末のフリック入力。



### ウ 言語の形成と活用に関すること

言葉は知っているものの、その意味を十分に理解していなかつたり、言葉を適切に活用できなかつたりして、自分の思いや考えを相手に正確に伝えることが難しい場合がある。



- ◆実体験や、写真や絵と言葉との意味を結びつけながら理解したり、習った語彙を使って例文作りに取り組んだり、ICT 機器等を活用し、見る力や聞く力を活用しながら言語の概念を形成したりするように指導する。



## エ コミュニケーション手段の選択と活用に関すること

読み書きの困難により、文章の理解や表現に時間がかかることがある。



- ◆コンピューターの読み上げ機能を利用したり、読み書きの内容について関係性や項目を整理して考えやすくするため、図やシンボルなどで示すマインドマップのような表現を利用したりして、コミュニケーションの楽しさや充実感を味わえるようにする。

## オ 感覚の総合的な活用に関すること

視知覚だけに頼って文字を受容してから書こうとすると、意図している文字を思い出すことができなかつたり、上手く書けなかつたりすることなどがある。



- ◆腕を大きく動かして文字の形をなぞるなど、様々な感覚を使って多面的に文字を認識し、書くことができるような指導をする。

## カ 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること

左右の概念を理解することに困難さがあるなど、認知や行動の手掛かりとなる概念を含んだ指示や説明を理解することが難しいことがある。

- ◆空間や時間などの基礎的な概念の形成を図る。



例) 様々な場面で、見たり触ったりする体験的な活動と位置や方向を表す言葉とを関連付けたり、言葉で具体的に意味づけしながら指導を行う。



## キ 集団への参加の基礎に関すること

言葉の意味理解の困難さや間違いなどから、友達との会話の背景や経過を類推することが難しく、そのため集団に参加しにくいことがある。



- ◆日常的によく使われる友達同士の言い回しや、その意味することが分からないときの尋ね方などを、あらかじめ少人数の集団の中で学習しておく。



## ク 障がい特性の理解に関すること

得意な能力がある一方で、学習が上手くないことや、他者と比較して過度に自己評価を低下させてしまうことがある。



- ◆個別指導や小集団指導などの学習における指導形態を工夫しながら、心理的な安定を担保し、安心した環境の中で、自分の特性に気づき、自分を認め、生活する上で必要な視点を求められるようにする。

## ケ 情緒の安定に関すること

読み書きの学習を繰り返し行っても、なかなか成果が得られなかったり、認められる経験が乏しかったりすること等から、生活全般において自信を失ったり、過度に自己評価が下がったり、意欲が低下したり、情緒が不安定になったりする場合がある。



◆一つでもやり遂げた経験や成功した経験を積むこと、本人の努力をしっかりと認めることで自信を持たせたり、やり方を工夫すれば自分もやり遂げることができることに気づくように促したりする。

◇学習障がいのある子供の教育的ニーズを整理する際、子供に対する特別な指導内容を把握することが必要です。また、ア～ケは代表的な例を挙げており、子供の実態によってその他の特別な指導内容も十分に考えられます。

---

参考：「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」  
(文部科学省初等中等教育局特別支援教育課、令和3年6月)

参考：「小・中学校、高等学校におけるインクルーシブ教育システム推進のためのコーディネートハンドブック」  
(福島県特別支援教育センター、平成31年3月)



# **Special Needs Education**